

「メンタル不調にならないために」というテーマに引き続いて、2019年7月から「人生100年時代に向けてのキャリア開発」と題して、

日本産業力カウンセラー協会中部支部の会員であるキャリアコンサルタントのみなさんの

ナビゲーター

アドバイスや現場の声をお伝えしました。

その掲載内容は、①なぜ「キャリア」が大切になったのか、②キャリアとは（定義・種類・職業との違い）、③キャリア開発の意味（自己の能力・適性・価値観と仕事とのマッチング）、④キャリア

◆5◆

働く人と組織

働きやすさの獲得と働きがいの創出

開発のステップ（自己理解↓仕事理解↓啓発的经验↓意思決定↓実行↓フォロー）、⑤キャリアアカウンセリングの特徴（メンタル不調者との相談に応じる産業力カウンセラーと、キャリアについての相談を行なうキャリアアカウンセラーの違い）、⑥キャリアアカウンセラーの活躍する職場（学校・企業・ハローワークなど公的需給調整機関・人材ビジネス）、⑦キャリアアカウンセラーの課題（セルフ・キャリアアドックの必要性、「社会正義」の実現）などでした。

前記で「キャリアアカウンセラー」と「キャリアアカウンセラー」の言葉の使い分けを

「就社」から「就職」へ時代は変わる

しましたが、ほぼ同様の意味です。ここでは、前者は相談者のキャリア形成のためにカウンセリングや、情報提供、意思決定の支援などを総合的に支援する人、後者は前者の仕事の一部としての相談者のカウンセリングをする人という意味合いで使いました。

前者が資格の正式名称ですが、民間資格であったキャリアアカウンセラーは平成28年4月1日に「国家資格キャリアアカウンセラー」（名称独占）となり、この資格のない人は「キャリアアカウンセラー」などと名乗ることはできなくなりました。

前回の最後に、「『働きがい』が要因」つまり「働きがい」も満たされる必要があると述べた。そのためには、個人の『キャリア開発』による自己実現の達成や自己効力感の獲得が大切です」と締めくくりました。「自己のキャリア開発を目指すことこそが、働く者にとって大きなモチベーションになる」と考えるからです。

「働きがい」や「生きがい」につながるものです。

【日本産業力カウンセラー協会 産業力カウンセラー キャリアアカウンセラー 社会保険労務士 杉本和夫】

（火曜日掲載）

のでしようか。それは時代の变化により、今後は学校を出て会社などに就職し、定年になるまで一つの会社で働き続けるというよりは考えにくくなるからです。といいますのは、個人の寿命が伸びる一方、社会の変化が大きく会社の寿命は平均で10年と言われる時代だからです。

転職するにしても、また会社で働き続けるにしても、自分分は「これは絶対に他人には負けない」という職業の武器を持つことが必要で、これが「キャリア」です。キャリア

の泰斗（たいと）であるシャインの説で言えば「キャリア・アンカー」です。アンカーというのは日本語で言えば「錨（いかり）」で、錨があることによつて、船はどんな嵐が来ても沖に流されるということはありません。キャリア・アンカーは、自分が「得意」で、「好き」で、「価値観」を感じるもので、自分が最後まで手放したくない自己の「アイデンティティ」で、「働きがい」や「生きがい」

